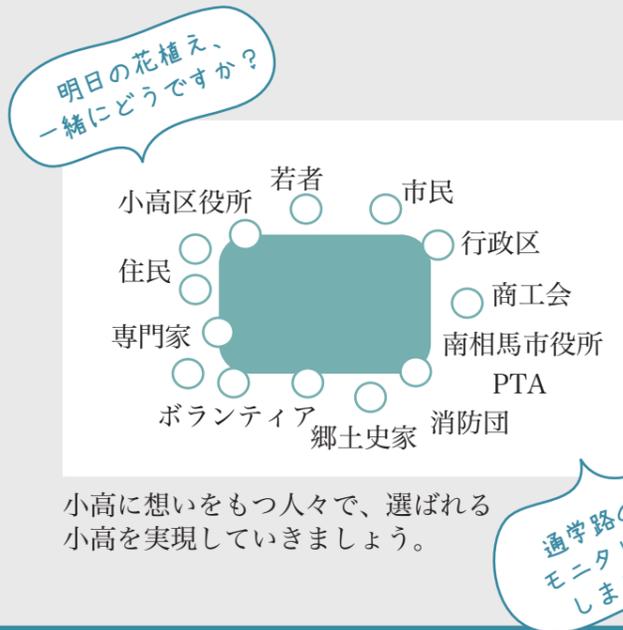


まちなかプランを実現する協働の仕組み

協働の拠点・復興デザインセンター

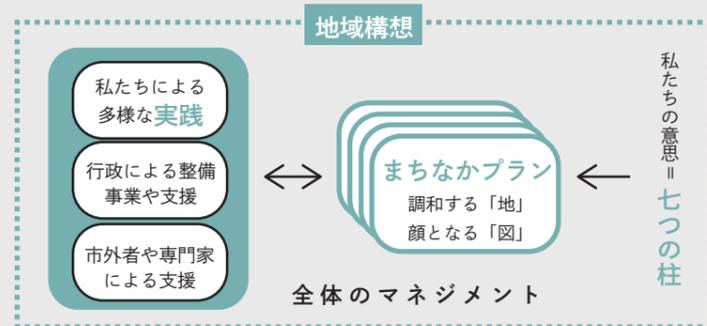
まちなかプランは、私たちの多様な実践を中心として実現していきます。
同時に、行政や市外者との協働も重要です。また、常に変化している状況への、臨機応変な対応も必要です。まちなかプラン自身に修正が必要なこともあります。



復興デザインセンターの役割

プランや地域構想のマネージメント

変化の激しいまちなかや小高全体の状況を把握し、改善を図るために、定期的に話し合いを積み重ねていきましょう。
関心のあるテーマが話し合われるときに、関心のある人が集まる場もあります。



たとえば、まちなかプランに描いてあるように、まちなかのあちこちに、魅力的なまちかどを作るには、地権者の意向を尊重することは大事ですが、まちなか全体を考えて、空間をしつらえ、有効に利用することも重要です。
そうした調整をするのが復興デザインセンターです。

復興デザインセンターの四つの特徴

- ① 顔の見える付き合い
実践者同士が、それぞれの活動内容を共有すれば、相互に助けられます。
緩やかな知人を増やして、お互い様と思える範囲を広げる交流をしましょう。
- ② だれもがふらっと立ち寄れる実際の場所
まちなかの空き家で十分ですが、みんなが行きやすく、人と人が話し合い、行動を起こせる実際の場所が必要です。
用事がなくても、ふらっと立ち寄りたくなる場所にしましょう。
- ③ 信頼を築く情報のやりとり
気軽に情報をやりとりするとともに、ちゃんと相手に情報が届いているか、丁寧な確認も大事です。
新たな取り組みに挑戦する人には、使える資源を紹介しましょう。

つまり、まちなかプランの進行をマネージメントする協働の仕組みが欠かせません。
そのような場所が(仮称)復興デザインセンターです。復興デザインセンターは、行政組織でもなく、民間団体でもありません。

小高の魅力に惹かれ、小高を選んだ私たちが集まり、各自が自発的に、かつ、お互い様の精神で、小高を「選ばれたまち」にするために、協働しながら、色々な種を育てる場所です。



▶復興デザインセンターのイメージ
大槌町では、まちなかの空き家で、模型や昔の写真を横において、被災とそれまでの暮らしの記憶をお伺いしました。

地と図の風景づくり

やること▼ルールとして、無理なく共有できる範囲は、関係者の話し合いによって決めます。

目的▼調和を重んじる「地」となる風景が少しずつ積み重ねられていきます。
復興デザインセンターの役割▼ルールづくりや微修正を担います。

やること▼広く声かけをして、想いのある方が集まって、より魅力的な小高に育てていきましょう。
目的▼「図」となる小高の顔を創出していきます。
復興デザインセンターの役割▼活発な議論や必要な実践を支えます。

復興デザインセンターの展開

小高全体の生活サービスの拠点

まちなかの復興デザインセンターを、海沿いや山際の在にとつても役立つ復興の拠点にしていきましょう。
困ったときの公共サービス、とりわけ在とまちなかをつなぐ交通サービスを官民共同で担えたら、福祉や買い物など、多様なサービスへと展開するかもしれません。

放射線リスクへの対応

まちなかの復興デザインセンターを、海沿いや山際の在にとつても役立つ復興の拠点にしていきましょう。
困ったときの公共サービス、とりわけ在とまちなかをつなぐ交通サービスを官民共同で担えたら、福祉や買い物など、多様なサービスへと展開するかもしれません。

復興の軌跡の共有

東日本大震災後の私たちの復興の軌跡を記録しましょう。
それだけでなく、過去の水害や冷害や飢饉に引き合ってきた先人の歴史も合わせて共有して、将来にはミュージアム機能も確保しましょう。
何が災害を招いたのか、またどう復興したのか、検証して未来への遺産にしましょう。